

平成27年度 租税教育実践発表会

石巻地区租税教育推進協議会

次 第

1 開 会

2 開会挨拶 石巻地区租税教育推進協議会会長
(女川町教育委員会教育長)

3 発表者紹介

4 実践発表 石巻市立大谷地小学校 教諭 鈴木 智
石巻市立釜小学校 教諭 勝又 健博
石巻市立稲井中学校 教諭 不流 和夫

5 質 疑

6 閉会挨拶 石巻地区租税教育推進協議会副会長
(石巻税務署長)

7 閉 会

実践発表資料

石巻市立大谷地小学校

教諭 鈴木 智 1

石巻市立釜小学校

教諭 勝又 健博 8

石巻市立稲井中学校

教諭 不流 和夫 14

平成27年度

租税教室実践発表資料



石巻市立大谷地小学校
教諭 鈴木 智

1 はじめに

税金は、私たちが生活していく上で安全で安心した日常を営むためになくしてはならないものであり、納税は欠かすことができない国民の義務である。私たちは、教育、福祉、消防、警察などの公共サービスや、道路や橋の整備などの公共事業によって支えられており、これらの費用のほとんどが税金で賄われている。しかし、小学校6年生の段階で、自分たちの暮らしと税が密接な関係にあることに気付かずにいる児童が多く見られる。

今まで税について学習してきたのは、社会科の「日本の歴史」において、「租・庸・調」や「年貢」等であり、児童は税を納めることの厳しさや苦しさといったイメージをもっている。具体的な「税の働き」についての学習は、社会科の『下』の教科書で扱う「わたしたちの生活と政治」の内容である。

そこで、児童の税に対する認識を高めるために、租税教室を実施することとした。今回の実践を通して、税の大切さや必要性について関心を持ち、政治や国の将来について考えていけるような素地を養いたいと思っている。

2 児童の実態

本学級は6年生（男子15名、女子14名）計29名の児童が在籍している。事前に「税」に関するアンケートを行った。結果は次のとおりである。

- | | | | |
|---|--|---------------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 税金にはどんなイメージがあると思いますか。(複数回答) | | | |
| <input type="checkbox"/> 高い (24) | <input type="checkbox"/> いらぬ (4) | <input type="checkbox"/> 取られる (3) | <input type="checkbox"/> 細かい (1) |
| <input type="checkbox"/> 増えている (1) | <input type="checkbox"/> 道路を作っている (1) | <input type="checkbox"/> 教科書をもらえる (1) | |
| 2. 税金の種類で知っているものを書きましょう。(複数回答) | | | |
| <input type="checkbox"/> 消費税 (27) | <input type="checkbox"/> 所得税 (6) | <input type="checkbox"/> 脱税 (5) | <input type="checkbox"/> 納税 (5) |
| <input type="checkbox"/> 住民税 (2) | <input type="checkbox"/> 法人税 (2) | <input type="checkbox"/> 自動車税 (1) | <input type="checkbox"/> 関税 (1) |
| 3. 税はどこに納められているとおもいますか。(複数回答) | | | |
| <input type="checkbox"/> 国 (10) | <input type="checkbox"/> 警察 (7) | <input type="checkbox"/> 銀行 (7) | <input type="checkbox"/> 税務署 (6) |
| <input type="checkbox"/> 県庁 (1) | <input type="checkbox"/> 市役所 (1) | <input type="checkbox"/> 消防署 (1) | <input type="checkbox"/> 天皇陛下 (1) |
| 4. 税金の使い道はどこで決めていると思いますか。(複数回答) | | | |
| <input type="checkbox"/> 国 (15) | <input type="checkbox"/> 銀行 (8) | <input type="checkbox"/> 警察 (4) | <input type="checkbox"/> 総理大臣 (3) |
| <input type="checkbox"/> 税務署 (2) | <input type="checkbox"/> 県庁や市役所 (2) | <input type="checkbox"/> 偉い人 (2) | <input type="checkbox"/> 国際連合 (1) |
| 5. 税金は何に使われていると思いますか。(複数回答) | | | |
| <input type="checkbox"/> 建設費 (6) | <input type="checkbox"/> 教科書 (5) | <input type="checkbox"/> 偉い人の給料 (5) | <input type="checkbox"/> 道路 (2) |
| <input type="checkbox"/> 救急車 (2) | <input type="checkbox"/> 国立競技場 (2) | <input type="checkbox"/> 支援物資 (2) | <input type="checkbox"/> 選挙 (2) |
| 6. 税金についてくわしく知りたいことは何ですか。(複数回答) | | | |
| <input type="checkbox"/> なぜ税金はあるのか (9) | <input type="checkbox"/> 税金は何に使うのか (8) | | |
| <input type="checkbox"/> なぜ税金は上がるのか (7) | <input type="checkbox"/> 1年間で集まる金額はどのくらいか (3) | | |
| 7. 税金は必要だとおもいますか。(一つ選んで理由を書きましょう。) | | | |
| <必要・まあまあ必要：19 (抜粋)> | | | |
| <input type="checkbox"/> 国のお金がないと大変だから | <input type="checkbox"/> わたしたちの役に立っていることもあるから | | |
| <input type="checkbox"/> 税金がないと国が成り立たないから | <input type="checkbox"/> ないと不安だから | | |
| <input type="checkbox"/> 教科書をもらえなくなるから | <input type="checkbox"/> 税金を無駄に使っているわけではないから | | |
| <あまり必要でない・必要でない：10 (抜粋)> | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 自分たちに関係ないから | <input checked="" type="checkbox"/> 何のためにつかわれているかわからないから | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 物が高くなるから | <input checked="" type="checkbox"/> 消費税は30年前はなかったから | | |

児童は、詳しい税についての学習が未習のため関心が低く、税金と聞くと「高い」、「取られる」などマイナスのイメージがあることが分かる。消費税については知っているが、基礎的な知識については認識が低い。その他の税の種類についても、名前は分かるがほとんど理解していない。全体的には、税金についてあまり良い印象を持っておらず、税金が自分たちの生活を支えていることを実感している児童はほとんど見られなかった。この学習を通して、税についての正しい理解を深め、納税者としての意識を育てていきたい。

3 指導に当たって

指導にあたっては、次の3点について留意していく。

- (1) これまでに学んだ日本の歴史の中で「租・庸・調」「年貢」「地租」などの税が古くからあったことを想起させ、税への関心を高め、税金に関連づけながら学習に取り組ませていく。
- (2) ゲストティーチャーとして税務署の方を迎えて、税金について詳しい話を聞き、その意味や仕組み、用途などを理解させる。
- (3) 学習した内容を作文や絵はがきなどで表現し、納税義務と税に対する適正な用途についての意識を高めさせるようにする。

4 指導計画（5時間扱い）

回数	学習活動	時間
1 事前指導①	「税に関するアンケート」 ・アンケートに記述する。	0.5
2 租税教室	「実践授業」 租税教室：わたしたちの生活と税 ※ゲストティーチャー：石巻税務署 川田さん	1
3 事後指導①	「租税教室を終えて 一句」 ・租税教室を終えた感想を川柳にする。	0.5
4 事後指導②	「租税教室を終えて」 ・税について学んだことを作文に書く。	1
5 事後指導③	「税に関する絵はがきコンクール」 ・「税」の大切さを絵はがきに表す。	2

※社会科との関連について

	◎…単元・題材名	○…語句・内容
日本の歴史	◎天皇中心の国づくり「大化の改新と天皇の力の広がり」	○班田収授の法…：戸籍と計帳を作成し、土地を人民に貸し与え、それをもとに課税した。 ○租庸調…税や労役を課す制度を改革し、人々に「租・庸・調」の税を納めさせた。
	◎武士の世の中「人々のくらしと身分」	○秀吉の太閤検地…農民がどれだけ税を納めるかを検地帳に記した。 ○五人組…百姓のまとまりをつくり、「収穫の半分にもなる重い年貢」を納めさせた。
	◎明治の国づくりを進めた人々「大久保利通と明治新政府の改革」	○地租改正…土地の価格の3%を現金で納めさせた。
生活と政治	◎子育て支援の願いを実現する政治	○税の働き…税の集められ方と役割について知る。
	◎わたしたちのくらしと日本国憲法	○納税の義務…国民の義務について知る。

5 実践内容

【租税教室：わたしたちの生活と税】

(1) 目標





- 税の種類、集められ方、使われ方などについて知り、自分との関わりや納税の意義について考えることができる。


(2) 実施期日：平成27年9月3日（木）

(3) 講師：石巻税務署 総務課 川田 真澄様

(4) 対象：石巻市立大谷地小学校6年29名

(5) 実践の様子

段階	学習活動	学習の様子						
導入	<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">自分たちの生活と税金の関わりを考えよう</div> <p>2 ゲストティーチャーを知る。</p>	 <p>○石巻税務署川田さんを紹介し、税について学習していくことを確認した。</p>						
展開	<p>3 ゲストティーチャーの説明を聞き、税金について考える。</p> <p>(1) 教育と税金について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年間の教育費 小学生 約86万円 ○6年間では、約5,160,000円 <p>(2) 消費税について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本は8%から10%になる予定 ○イタリア・デンマークでは20%以上の国々もある <p>(3) 税の歴史について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○飛鳥時代→租・庸・調 ○安土桃山時代→太閤検地 <p>(4) 税の種類について（約50種類）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国 税：国に納める税 ○地方税：県や市町村に納める税 <p>(5) 国民の三大義務について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○納税の義務（日本国憲法第30条） <p>(6) 税金の使われ方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公共施設建設、維持に使われている。 ○学校建設費約10億円（1校当たり） <ul style="list-style-type: none"> ・10億の重さはどれくらい？→実際に持ってみよう <p>(7) 「もしも税金がなかったら？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○DVD：「マリンとヤマト不思議な日曜日」を視聴 <ul style="list-style-type: none"> ・救急車や消防車の有料化 ・ゴミ収集車が来なくなりゴミが増える ・みんなの道路という意識の欠如 <p>(8) 税の使い道</p> <ul style="list-style-type: none"> ○納税（国・県・町）→予算（国会）→サービス（国民）→消費（お店）のサイクル ○国民が納めた税は国民のために使われている 	<p>1年間の教育費</p> <table border="1"> <tr> <td>小学生</td> <td>中学生</td> <td>高校生(全日制)</td> </tr> <tr> <td>約86万円</td> <td>約98万5千円</td> <td>約99万7千円</td> </tr> </table> <p>ちなみに、サラリーマンの平均的な1年間の収入は400万円です・・・</p> <p>○教育に税金が使われていることを知る。</p> <p>税金の使われ方 税金は色んなところに使われている！</p>  <p>○税金の使われ方を知る。</p>  <p>○1億円を実感する。</p> <p>もしも税金がなかったら</p>  <p>○税金のない不便な生活について考える。</p> <p>○税の大切さを実感する。</p>	小学生	中学生	高校生(全日制)	約86万円	約98万5千円	約99万7千円
小学生	中学生	高校生(全日制)						
約86万円	約98万5千円	約99万7千円						

ま と め	<p>4 感想を発表する。</p> <p>○税金は必要であることが分かった。</p> <p>○税金のおかげで無償で勉強できることが分かった。</p> <p>○警察や消防署など自分たちの生活に必要なことに税金が使われていることが分かった。</p> <p>○「脱税」や「納税」という言葉の意味が分かった。</p>	 <p>○分かったことや疑問に思ったことを発表する。</p>
-------------	--	---

6 事後指導と振り返り

(1) 【税に関する絵はがきコンクールへの参加】

○真剣な表情で絵はがきを書く子どもたち



(2) 【行事・学習後の川柳より】

○行事や学習活動後にいつも書く川柳を『租税教室』を終えて書きました。

税金は 日本の暮らし 支えてる	税金は より良い暮らし つくってる	税金は みんなを守る 命つな	税金を みんなで納め いい暮らし	八円が だれかの笑顔 つくってる	税金で 平和な暮らし 続いてく	安心な 生活しよう 税金で	税金が みんなの暮らし 支えてる
-----------------------	-------------------------	----------------------	------------------------	------------------------	-----------------------	---------------------	------------------------

(3)【作文：租税教室で学んだこと】

私は、税金の授業を受けて思ったことが二つあります。

一つ目は、税金はとても大切だということ。前までは、税金は本当に必要なかと思っていました。しかし、話を聞いたりDVDを見たりして、今までの自分の考えと真逆で、税金があるからこそ、朝、昼、晩とあたりまえにご飯を食べられるのではないかと思います。

二つ目は、身近にたくさん税金が使われているということです。私たちがあたりまえに学校に通うことができるのも全て税金があるからです。わたしは学校が大好きです。でも、もし税金がなくなり自分の親が学費を払おうとしたら、親は経済的な問題でお金に困るかもしれません。そうなる子どもは不安になり学校生活を楽しむことができなくなると思います。税金は、私たちが生活していく上でとても大事なことのだと、改めて今日の授業で実感しました。

私達が嫌々払っている税には大切な理由があったことを知れて良かったです。最初は一時間も使った授業することなのかと思いましたが、もっと税の話を知ることが良かったです。

ぼくは、税金について学びました。ぼくは最初、税金は高いし、いらぬ必要はないと思っていました。でも、税金がないと学校を作れなくなったり、交番が有料になったりと、みんなが困ってしまうことが分かりました。これからも、みんなで税金を納めて国のためになってほしいと思いました。今日は税金について勉強できて良かったです。

私は、租税教室で税金についていろいろ教えてもらう前は、「税金なんて必要ないんじゃない。」「税金ははらう意味があるのかな。」と思っていました。しかし、税金は私たちにとても大切だということが分かりました。もし税金がなかったら、自分の家が火事になったとき、火を消すお金が自分たちではらわなくてはいけないのです。それから、学校で勉強に必要な教科書や机やイス、パソコンや実験器具などのお金をはらわなくてはいいのは税金があるからなんだと改めて知りました。物を買ってはらっている消費税も私達に必要なものに使われていることが分かりました。税金の大切さをたくさん学べて良かったです。

私が租税教室で学んだことは税金は大切だということです。私は今まで「税金はどうしてとるんだろう、必要ないのに。」と思っていました。しかし、実際に税金のことを学んでみると、いつも使っている道路や公園が税金で作られていたのでおどろきました。それから、税金は何に使っているんだろうと考えたことがありました。税金の使い道が私達の生活に役立っていたなんて全然知りませんでした。今まで、全く知らなかった税について、今日の租税教室のおかげで少しですが分かりました。今は消費税が十パーセントになるのが少し楽しみになりました。

ぼくが租税教室で学んだことは二つあります。一つ目は、税金が学校のピアノやボールなどに使われていることです。ぼくは今まで、税金なんて、ただ無駄にお金をつかうだけかと思っていました。二つ目は、脱税の意味が分かりました。税金を払わなければいけないのにお金をはらわないことです。ぼくは、租税教室で税の大切さを学びました。大人になつて生かしたいと思いました。

私が今日の租税教室で学んだことは、税金がなくなると人々の暮らしが不便になってしまうことです。今までは、税金なんてなぜあるんだろう、と思っていました。でも、今日のDVDを見て、自分の考えが変わりました。それから、今日は一億円の見本を持ってみました。思ったより重くて持ち上げられませんでした。これからは税の大切さを忘れず、税が身近にあることを感じながら暮らしていきたいです。

ぼくが税金の話を知って、初めて知ることが二つあります。一つ目は、家や車を持っているだけで税金がかかることです。家や車は高いお金を出して買っているのに税金はかからないかと思っていました。二つ目は、学校の建物やピアノなどは全て税金でまかなわれていることです。僕は毎月の集金から少しずつ引かれているのだと思っていたのでびっくりしました。ぼくは今まで、「どうして税金をはらわなきゃならないんだ。」と思っていましたが、租税教室で話を聞いて、「税があるからこそ今の生活ができるんだ。」と思いました。

7 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 租税に関する理解が深まり、普段の生活の中で税で賄われているものについて、「大切に使うなければならない」「節約しなければならない」という意識が高くなった。
- 税の仕組みや国予算について学習していく中で、政治に関する関心が高くなり、これから学習する社会科「私たちの生活と政治」の意欲付けとなった。
- 「税金がなくなったら、どんな生活になるのか」を考えさせることで、納税の義務に対する意識が非常に高くなった。
- ゲストティーチャーによる授業を実施したことで、児童が知らなかった税に関する専門的な知識に触れることができ、税の大切さを実感することができた。
- 税については今回の授業で終わらせるものではなく、今後も機会を見つけ継続的に指導することが大切である。今回の租税教室を通じて、将来児童が納税者として国民の義務を果たしていくためにも、意識を高めていかなければならないと感じた。

8 実践を振り返って

今回、「税」に関する学習を行い、税金は「高いもの」「いらぬもの」という悪いイメージから、「大切なもの」「必要なもの」といったイメージに変わっていった。また、税金の大切さを知るとともに、自分たちも『納税』という形で国政に参画しなければならないという意識が高まった。

今回の実践を振り返り、児童の変容を目の当たりし、改めて租税教育の必要性を強く感じた。今後も税についての学習を通して、自分たちはどのようにしていかななくてはならないかを考えさせながら、税の大切さを、実生活と結びつけて生活できるように支援していきたい。

平成27年度

租税教育実践発表会資料



石巻市立釜小学校

教諭 勝又 健博

1 はじめに

「納税」は、「勤労」「教育」とともに日本国民の三大義務として定められており、日本国憲法には「国民は、法律の定めるところにより、納税の義務を負う。」と明記されている。また、日常生活に欠かすことのできない様々な行政サービスは、国民が納めている税金によって維持・運営されている。国や地方公共団体に納める税金は、我々国民が快適に生活するうえで必要不可欠なものであるといえる。しかしながら、児童にとって日常頻繁に目にしている道路や交通標識、警察や消防、ゴミの収集などは生まれた時から身近にあり、それらが税金を基にした行政サービスの一環として存在するという意識は少ない。さらに、児童にとって身近な税金である消費税に対しては、「商品を購入する際に付加されるもの」「商品の定価を高くする」というイメージをもっているのが現状である。これは、納められた税の仕組みやどのような目的で税金が支出されているかについての知識が不足している為だと思われる。

そこで今回の租税教育を通して、税金とはどのようなもので、どのように使われているのかや、税金がないとどのような生活への影響があるのかという学習を通して税金の必要性について理解させたい。

2 児童の実態

本学級は第6学年男子18名、女子20名、計38名で構成されている。学習においては、集中して説明を聞き、取り組む姿が見られる。特に社会科の歴史分野については歴史上の人物や歴史上の事件や出来事に対して進んで理解しようという意識を持っている。

事前に税金について知っていることを尋ねたところ、「消費税」「税込」「税務署」「納税」程度であった。普段の生活において税金を意識することはほとんどないと考えられる。また、税金については、普段の生活から得られる情報からその存在は知っているものの、税金の種類や消費税以外の納税の仕方、どのようなことに支出されているのかについて意識することなく生活していることがうかがえる。

3 社会科との関連

第6学年では、社会科の歴史分野、公民分野において「税金」について学習する。

(1) 日本の歴史

○天皇中心の国づくり「大化の改新と天皇の力の広がり」「仏教の力で国を治める」

- ・国を治めるためにどのような法律が作られ、物の流通があったかについて調べる。

(律令, 租・調・庸)

- ・都のにぎわいとそれを支える地方の人々の暮らしについて調べる。

(重い税の負担)

○3人の武将と天下統一「大阪城と豊臣秀吉」

- ・豊臣秀吉は、天下統一をするために、どのようなことを行ったのか調べる。

(太閤検地)

○江戸幕府と政治の安定「人々のくらしと身分」

- ・家光を中心とする江戸幕府が、どのように百姓や町人などを支配したのか調べる。

(年貢, 五公五民)

○明治の国づくりを進めた人々「大久保利通と明治新政府の改革」

- ・欧米に学んだ大久保利通らが、どのような国づくりを目指したのかを調べる。

(地租改正)

(2) わたしたちの生活と政治

○子育て支援の願いを実現する政治「税金の働き」

- ・子育て支援センターを建設，運営するための費用がどこから出ているのかを調べる。
- ・税金の集められ方と使われ方について調べる。
- ・税金がなかったらどうなるのかを考え，税金の役割について話し合う。

○震災復興の願いを実現する政治「災害復旧に向けた国の支援」

- ・災害からの復旧・復興に向けた国の取り組みを調べる。

(補正予算)

4 指導にあたって

指導にあたっては，次のことに留意して学習を進めていきたい。

- 社会科の学習の中で，税金にかかわる単元を意識して取り上げ，税金に触れさせながら学習に取り組みさせていく。その際，これまでの歴史で存在した税金という仕組みが形を変え，現代社会にも取り入れられていることを意識させていく。
- 税務署に依頼し，ゲストティーチャーとして税理士の方をお招きし租税教室を実施することで，日本にはどのような税金があり，もしも税金がないとしたら日常生活にどのような弊害が起こるのか等の，税に関する専門的な知識を学び，税金の重要性を理解させる。
- 税金について学習することで，今後自分たちはどのように税金にかかわっていかなくてはならないのかを考えさせ，将来，政治や国について考える基礎を養っていく。

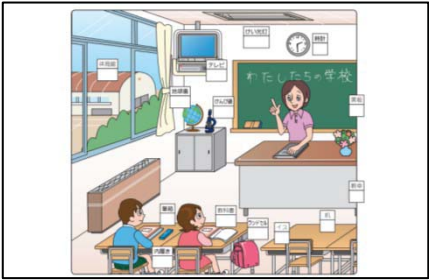
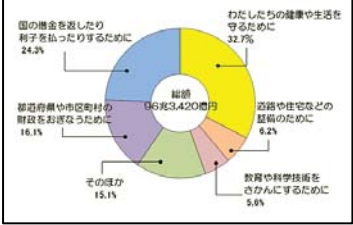
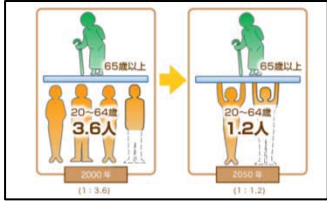


5 指導計画（2時間扱い）

時間	目標	学習活動
業前	・税についての知識や，これまでの歴史に登場した税について確認をする。	・日常生活を通して，知っている税について確認する。 ・奈良時代から始まる「租・調・庸」，江戸時代の「年貢」等，これまで学習した税と，今後社会科で学習する主な税に関して知らせる。
1	・日本にはどんな税金があり，税金は何に支出されているのかを知る。 ・税金がない社会は，どのようなものになるのか考える。	※石巻税務署に依頼し租税教室を実施。ゲストティーチャーによる指導。 ・DVD「マリンとヤマトの不思議な日曜日」を活用する。
2	・租税教室で学習した内容の確認を行い，自分たちの生活と関連させながら，税と自分たちのくらしが密接にかかわっていることを理解する。	※小学校社会科用学習資料「わたしたちのくらしと税金」，国税庁「税の学習コーナー」，財務省「もっと知りたい税のこと」を活用する。 ・少子高齢化に伴う，これからの社会での税の重要性について理解させる。 ・所得税，法人税の税収の低下と消費税とのかかわりについてグラフの読み取りから考えさせる。

6 実践内容

【第1次 税とは何だろう?】 9月24日(木) 実践

学習活動 (○主な発問 ・児童の反応)	主な支援																																																																																
<p>1 税金の種類について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「知っている税の種類を発表しましょう。」 <ul style="list-style-type: none"> ・「消費税」「税務署」「税込」 ○「日常の生活ではこれらのような税があります。」 ○税の種類について話を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・50種類もあるのか。 <p>2 各国の消費税を比較するグラフを提示し、消費税について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「日本は8%です。このグラフは何のグラフですか。」 <div data-bbox="443 882 676 1055" data-label="Figure"> <table border="1"> <caption>これは何を払ったグラフかな?</caption> <thead> <tr> <th>国</th> <th>税率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>日本</td><td>8</td></tr> <tr><td>韓国</td><td>10</td></tr> <tr><td>台湾</td><td>5</td></tr> <tr><td>香港</td><td>0</td></tr> <tr><td>シンガポール</td><td>0</td></tr> <tr><td>マカオ</td><td>0</td></tr> <tr><td>タイ</td><td>7</td></tr> <tr><td>インドネシア</td><td>10</td></tr> <tr><td>フィリピン</td><td>12</td></tr> <tr><td>インド</td><td>18</td></tr> <tr><td>中国</td><td>17</td></tr> <tr><td>アメリカ</td><td>0</td></tr> <tr><td>フランス</td><td>20</td></tr> <tr><td>ドイツ</td><td>19</td></tr> <tr><td>イタリア</td><td>22</td></tr> <tr><td>英国</td><td>20</td></tr> <tr><td>オーストラリア</td><td>15</td></tr> <tr><td>ニュージーランド</td><td>15</td></tr> <tr><td>カナダ</td><td>13</td></tr> <tr><td>メキシコ</td><td>16</td></tr> <tr><td>ブラジル</td><td>17</td></tr> <tr><td>ロシア</td><td>13</td></tr> <tr><td>南アフリカ</td><td>9</td></tr> <tr><td>インドネシア</td><td>10</td></tr> <tr><td>フィリピン</td><td>12</td></tr> <tr><td>インド</td><td>18</td></tr> <tr><td>中国</td><td>17</td></tr> <tr><td>アメリカ</td><td>0</td></tr> <tr><td>フランス</td><td>20</td></tr> <tr><td>ドイツ</td><td>19</td></tr> <tr><td>イタリア</td><td>22</td></tr> <tr><td>英国</td><td>20</td></tr> <tr><td>オーストラリア</td><td>15</td></tr> <tr><td>ニュージーランド</td><td>15</td></tr> <tr><td>カナダ</td><td>13</td></tr> <tr><td>メキシコ</td><td>16</td></tr> <tr><td>ブラジル</td><td>17</td></tr> <tr><td>ロシア</td><td>13</td></tr> <tr><td>南アフリカ</td><td>9</td></tr> </tbody> </table> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・消費税 <p>3 日本の年間予算と税収を比較する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本の予算は約96兆円に対し、税金による収入は約55兆円です。足りない分は借金で賄われています。 <p>4 1億円のレプリカを持ってみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重い。 ・こんなに大きいのか? ・すごい。 <p>5 DVD「マリンとヤマトの不思議な日曜日」を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「もし税金がなかったらどうなるでしょうか。」 <ul style="list-style-type: none"> ・消防車や救急車が来なくなる。 ・道路が作られない。 ・どんなことにも高いお金がかかる。 <p>6 税金についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「税金が私たちの生活を支えているのです。」 	国	税率 (%)	日本	8	韓国	10	台湾	5	香港	0	シンガポール	0	マカオ	0	タイ	7	インドネシア	10	フィリピン	12	インド	18	中国	17	アメリカ	0	フランス	20	ドイツ	19	イタリア	22	英国	20	オーストラリア	15	ニュージーランド	15	カナダ	13	メキシコ	16	ブラジル	17	ロシア	13	南アフリカ	9	インドネシア	10	フィリピン	12	インド	18	中国	17	アメリカ	0	フランス	20	ドイツ	19	イタリア	22	英国	20	オーストラリア	15	ニュージーランド	15	カナダ	13	メキシコ	16	ブラジル	17	ロシア	13	南アフリカ	9	<p>○子どもたちから出なかった税金についてもどんな税なのかの説明を加え、紹介する。</p> <p>○「エリートサラリーマン 山本君の一日」のスライドを通して、成人男性の一日の生活で、どのような税を支払っているのかについて紹介する。</p> <p>○消費税を導入している国は多いが、国によって、消費税の税率が違うことを知らせる。</p> <p>○不足分の税収を東京タワーの高さと比較することで、実感を伴った理解につなげる。</p> <div data-bbox="842 1205 1436 1491" data-label="Image"> </div> <p>○映像資料を通して、税金によって日常生活の様々なものが支えられていることに気付かせる。</p> <div data-bbox="957 1686 1315 1951" data-label="Image"> </div> <p>○税金の必要性を理解させる。</p>
国	税率 (%)																																																																																
日本	8																																																																																
韓国	10																																																																																
台湾	5																																																																																
香港	0																																																																																
シンガポール	0																																																																																
マカオ	0																																																																																
タイ	7																																																																																
インドネシア	10																																																																																
フィリピン	12																																																																																
インド	18																																																																																
中国	17																																																																																
アメリカ	0																																																																																
フランス	20																																																																																
ドイツ	19																																																																																
イタリア	22																																																																																
英国	20																																																																																
オーストラリア	15																																																																																
ニュージーランド	15																																																																																
カナダ	13																																																																																
メキシコ	16																																																																																
ブラジル	17																																																																																
ロシア	13																																																																																
南アフリカ	9																																																																																
インドネシア	10																																																																																
フィリピン	12																																																																																
インド	18																																																																																
中国	17																																																																																
アメリカ	0																																																																																
フランス	20																																																																																
ドイツ	19																																																																																
イタリア	22																																																																																
英国	20																																																																																
オーストラリア	15																																																																																
ニュージーランド	15																																																																																
カナダ	13																																																																																
メキシコ	16																																																																																
ブラジル	17																																																																																
ロシア	13																																																																																
南アフリカ	9																																																																																

学習活動 (○主な発問 ・児童の反応)	主な支援
<p>1 税金の使われ方について振り返る。</p> <p>○「税金はどのようなことに使われているか思い出してみましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「消費税」「たばこ税」「酒税」「固定資産」「自動車税」など <p>2 教室内のものの中で、税金によって支出されているものを考え、身近なところで税金の恩恵を受けていることを知る。</p> <p>○「教室内で税金が使われているのは何でしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机やイス ・体育館や校舎 ・教科書 	<p>○前時の内容を確認し定着の度合いを確認する。</p> <p>○税金は3種類に大別できることを伝え、分類させる。(所得に対する税, 消費に対する税, 資産等に対する税)</p> <p>※財務省「もっと知りたい税のこと」より</p> <p>○国税庁「税の学習コーナー」にある国の支出のグラフを提示し、教育に支出する点に着目させる。</p>  <p>○小学校社会科用学習資料「わたしたちの暮らしと税金」を使用する。</p> <p>○小学生一人当たり、年間約86万円が税金によって賄われていることを知らせる。</p>
<p>3 消費税と所得税, 法人税の税収の推移を知り, 消費税について考える。</p> <p>○「どうして税金が高くなるのでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税金でいろいろなものを作っているから。 ・高齢者が多くなったから。 ・国がたくさんお金を使っているから。 <p>○所得税や法人税, 消費税の税収の推移のグラフです。どんなことが分かりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所得税や法人税の税収が減っている。 ・消費税が上がってきている。 	<p>○国税庁「税の学習コーナー」にある少子・高齢化問題についての図を提示する。</p>   
<p>4 税についての学習を振り返り, 感想を書く。</p>	

7 成果と課題（成果○、課題●）

- 租税教育を実施したことで、税金が自分たちの生活に必要不可欠のものであるという認識を育てることができた。また、児童の税金に対するイメージの改善にも有効であった。
- 今回の実践で活用した「わたしたちの暮らしと税金」や、ゲストティーチャーである税理士の方のご協力を頂いた租税教室は児童にとって分かりやすい内容であり、税金に関してよりよい児童の理解につながった。
- 様々な税金の種類を知り、さらに税金によって身近にあるたくさんの公共物が整備されていることを知り、税金は自分達の生活に密着しているものであるという意識を育てることができた。
- 社会科の時数のみでは、税について詳しく学習することができない状況である。年間指導計画に位置付け、生活に密接している税についてよりよい理解を図るためにも計画的に実践していくことが必要となってくる。

8 実践を振り返って

今回、租税の学習を行い、あまりにも子どもたちが税に対して無知なことに驚いた。同時に租税教育の必要性を強く感じた。現在、大人でもなかなか税金の仕組みを理解しているとは言えないと思われる。社会科で税について触れることはあっても、今回のように詳しく説明してもらうことはなかなかない。小学校のうちから、少しずつ税金について理解させていくことで、子どもたちは、将来大人になり社会を担う立場となった時に、納税がなぜ必要なのかを意識して税金を納めることができると思う。私自身も、大変良い勉強になった。このような学習の機会をいただけたことに感謝している。

9 児童の感想

- ・税金はなくなると、人々が生活していくことが大変になる。税金は、国のみんなのために使われていることが分かった。
- ・消費税はいらないうちかと思っていましたが、今回の学習を通して、税はなくなると大変なんだなあと感じました。
- ・税金の種類がたくさんあってびっくりしました。国の予算や支出の割合をきちんと覚えたいです。
- ・税金がなくなると大変なことになるなどということが分かりました。いろいろ、税金のことで新しいことを知ることができて楽しかったです。
- ・税金はこの世の中で大切なものということが分かりました。この勉強ができて、とてもためになったと思います。
- ・税金は思っていたよりたくさん種類があってびっくりしました。それから、税金がなくなると大変なんだなあと思いました。税のことをよく知ることができてよかったです。これからも税についていろいろなことを知っていきたいです。
- ・税金がなくなるととても大変なことが起こったりするので大変だなと思いました。そして、うちの人は様々な税金を払っていることが分かりました。

私たちのくらしと税
～税金の必要性に気づき、身近な税である消費税について考える授業

石巻市立稲井中学校
教諭 不流 和夫

1 はじめに

税金は、私たちが健康で豊かな生活をするために必要なお金であるが、その必要性を認識している子どもは少ない。収入を得ていない子どもたちも「消費税」という形で税を支払っているが、商品の価格以上に多くお金を支払うことに疑問を持っていたり、税金が何のために集められているかわからず不満を持ちながら支払っていたりする子どもがほとんどである。中学校では3年生で公民の時間に税金について学習するが、なぜ税金が集められるのか、どんなことに税金が使われるのかといった基本的な部分については1年生の段階で学んでおくことも大切であろうと考え、租税に関する学習を設定した。

中学1年生では、奈良時代の律令国家における税の徴収について歴史の授業で学習しており、それらと現在の税を比較しながら考えさせるなどして、税金についての基礎的な知識を身に付けさせたい。そして自分たちも消費税という形で納めている税金が世の中にとって大切な存在であるという意識を持たせたいと考え、今回の授業を行った。

2 生徒の実態

今回の租税に関する授業を行ったのは、私が担任をしている稲井中学校の1年1組30名である。社会科では特に歴史に対する興味・関心が高く、意欲的に発表する生徒も多い。

租税教育の授業をするにあたって、税に関するアンケート調査を実施した。以下はその結果である。

税に関するアンケート（1年1組 30名）

問1 あなたが知っている税の種類を書いてください。
消費税（26）、所得税（4）、法人税（1）、環境税（1）、国税（1）、住民税（1）、関税（1）
問2 税金は何のために使われていると思いますか。
学校の教科書。学校を建てる。学校の黒板などの備品。国民のためになるもの。環境保全。町を守るため。政治家の給料。公共の施設を造る。おじいさん、おばあさんに送られる年金。地球温暖化を防ぐ。土地を買うため。恵まれない人々の支援をするため。道路や橋を造る。ごみの処理。市や町の公園などみんなが使うものを造るため。社会を安定させるため。
問3 あなたは税金にどんなイメージを持っていますか。
どんどん高くなる。子どもの命を救う。国民のためのもの。8%。お金を納める。物を買うときに少し高くなる。公共のために使うのでよいイメージ。政治や会社。払うのが大変。先生たちの給料。大きな災害で被害にあった人々の物資や復興資金に使われているイメージ。
問4 税金について疑問に思っていることは何ですか。
どうして税金は上がっていくのか。なぜ子どもが払わなくてはならないのか。国はなぜ無駄に税金を使うのか。消費税がだんだん上がっていくのはなぜか。消費税をなぜ10%に上げようとするのか。集められた税金が最終的にどこに集まるのか。なぜ税金は必要なのか。

以上のアンケート結果からも、税についての既習知識は乏しく、ほとんどの生徒が「消費税」は知っているものの、あまりよいイメージを持っていない様子がみられた。ただ、少数ではあるが、集められた税金がどんなことに使われているかを理解している生徒もいたことがわかった。

3 指導にあたって

アンケート結果を見ると、税金の使い道がわからず、なぜ消費税をはじめとする様々な税金が集められているかを知らずに、不満をもっている生徒が多い。生徒が抱く疑問もネガティブなものが多いので、まず、税金の必要性について考えるために「もし税金がなかったら世の中はどうなるのか。」をグループの中で話し合わせたい。また、中学1年生を対象とする今回の税に関する学習は、複雑でわかりにくいものになってしまうことを避けるために、ポイントを絞って授業をするよう心がけ、今後の3年生での公民の学習につなげられるようにしたい。

4 実践計画

時間	学習内容	主な学習活動	指導資料
1	「税」について考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良時代の税について復習する。 ・現代の税について、「もし税金がなかったら、今の世の中どう変わるか。」というテーマをグループで話し合う。 ・話し合ったことを全体で発表する。 ・ある中学1年生の税金についての作文を読んで、まとめを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ある中学1年生の作文「僕たちの生活と税金」
2	「税」の種類を知り、消費税について考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から税金の種類について知る。 ・消費税を集めることの良い点と問題となる点をグループで考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「景気と税のしくみ」(荻原博子 監修)

5 実践のポイント

(1) 1時間目 「税」について考えよう。

①本時の指導目標

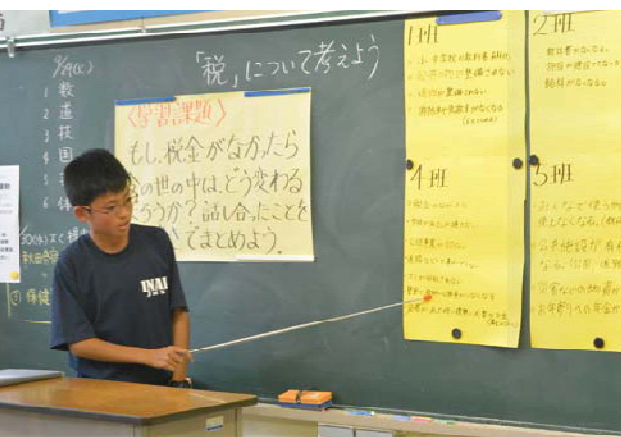
・「もし税金がなかったら、今の世の中どう変わるか。」というテーマでグループで話し合い発表することで、税に関する興味・関心を高め、税金の必要性を理解する。

②本時の流れ

- ・導入…歴史で学習した奈良時代の税について復習し、生徒にとって身近な税である消費税の成り立ちについて知る。
- ・展開…現代の税について、「もし税金がなかったら、今の世の中どう変わるか。」というテーマでグループで話し合い、全体に発表する。
- ・終結…ある中学1年生の税金についての作文を読んで、本時の授業の感想を書く。

③生徒の感想から

- ・最初は「税金なんていないのに。」と思っていましたが、税のことを学んだ今、必要なものなんだなあと深く実感することができました。
- ・税金は国が好きなように使っているだけだと思っていましたが、そうではなく、自分たちの生活を支えてくれているものだということがわかりました。
- ・税金を払うことで公共のものが建設されたり、消防車や救急車が使われたり、自衛隊が活動できることがわかりました。
- ・税金がないと生活することができないなと思いました。税金があるから安全に暮らし、楽しく生活していけるのだと思いました。
- ・今まで税金がなかったら良いのにと考えたことが何度かありましたが、これからは自分も消費税をこころよく支払うべきだと思いました。
- ・税金がなかったら、ゴミが集められなかったり、学校で壊れたものも直してもらえなかったりすることがわかり、とても不便になると思いました。
- ・今までは税金の意味がわからず、「税金で苦しんでいる人がいるのにどうして税金はたくさん集められなければならないのだろう。」と不満に思っていました。しかし、税金の使い道がわかった今、逆に税金がない方が不便で辛い生活になると考えが変わり、これからは社会や自分のために税金をしっかりと納めていきたいと思いました。



(2) 2時間目 「税」の種類を知り、消費税について考えよう。

①本時の指導目標

・税金の種類について知り、自分たちにとって身近な消費税について、グループでの話し合いを通して理解を深める。

②本時の流れ

・導入…消費税以外の現代の税金にはどんな種類があるのか、資料を見ながら理解する。

・展開…「消費税を集めることで良い点は何か。また、問題となる点は何か。」というテーマでグループで話し合い、ワークシートにまとめる。

・終結…税金を集める方法としてどんなやり方がよいか。を考え、ワークシートに自分の考えをまとめる。

③生徒の意見、まとめから

・消費税を集めることで国の収入が増え、国が借金を少なくすることができるが、物を買うのにお金がかかるので家庭の負担は大きくなる。

・物を買うときに必ず支払わなければならないので、多くのお金を集めやすいが、高い物になればなるほど消費税の金額も上がるので、物を積極的に買おうとする人が減ってしまう。

・消費税が一定の割合で決まっているのでみんな平等に税を払うことになるが、逆に収入が低い貧しい人の生活が苦しくなる。

・国の借金が少なくなるのは良いかもしれないが、国民の生活を考えないで勝手に消費税を上げられると困る。

・税金を集める方法ではないが、国が無駄遣いをしなければよいと思う。

・できるだけ働く人を増やせばよいと思うので、長い期間働ける職場を増やしたり、ニートになる若者が減るように働きやすい職場をたくさんつくったりする。

・会社の社長など、お金を持っている人からはたくさん税金を取って、社員など給料が低い人からは少なく税金をとればよい。

・売れている物の消費税を上げて、あまり売れていない物の消費税を下げる。

・酒税やたばこ税を多くした方がよいと思う。

6 実践を終えて (○は成果 ●は課題)

○租税学習をやる前に生徒が感じていた疑問を解決することが多少できた。

○生徒が税金の必要性を感じるようになった。

○今回の学習では、ポイントを絞った内容で授業を行ったが、生徒の発想や考え方にはなるほどと感じさせられるものもみられ、子どもの目線がどのように世の中を見ているかがわかった。

●学校での行事等の関係で自分の担任している学級の実践であったので、今回は学年あるいは全校での租税教育の取組みができなかったことが残念であった。

●今回の授業はグループでの話し合い、意見の交換を中心に行ったが、もともと税金に関する知識が少ない生徒の話し合いだったので、DVDや視聴覚教材等を活用するなどの事前学習を行うべきであった。

